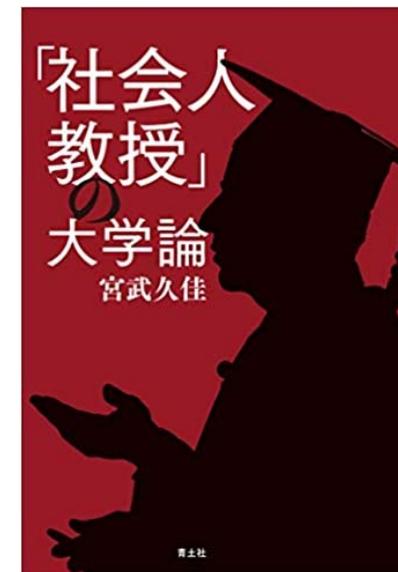


大学改革を担う実務家教員フェア2021  
2021年3月20日

第2部「大学教員を目指す社会人のための基礎講座」に寄せて

# 「社会人教授」の大学論

東京理科大学教授 宮武久佳

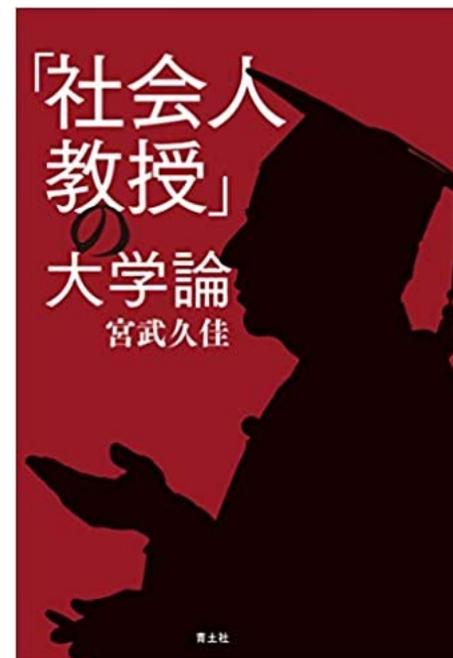


2020年8月刊（青土社）

# 「社会人教授」の大学論

(宮武久佳著 青土社、2020年)

- 序章 社会人が教授になる
- 第1章 社会人が大学で学び直す
- 第2章 大学という「業界」
- 第3章 志願者を増やせ
- 第4章 「インスタ映え」の時代に
- 第5章 多様化に直面する大学
- 第6章 忖度する大学生
- 第7章 若者に幻を
- 第8章 大学と社会
- 第9章 勉強させない国
- 第10章 人工知能と人生100年
- 終章 みんなの大学を



## 【私のこと：実務と教職】

① 大学教員になる前（通算25年：1984-2009年）

共同通信社（記者／デスク）

日本語と英語のバイリンガル記者。

FIFAワールドカップ日本組織委・報道部長（2000－02年）

② 大学教員（通算12年目：2009年から現在）

横浜国立大学（3年）、東京理科大学（10年）

専門：著作権論、コミュニケーション、メディア論など

③ 日本音楽著作権協会（JASRAC）理事（2010年から現在）

# 大学はゾンビか？

(今どきの大学を考える)

大学は本来の機能を失った。しかし「大学」という外形はそのまま。内容は大きく変わりつつある。

《大学教育はもはや、純粹に高校卒業と大卒採用の間の4年間をつなぐ形式となりはてて、内実など問われていない》

《もはや死んでいるかもしれないのに、かつて生きていた時代のなごりで、その形代（かたしろ）だけは残っている、ゾンビのようなものではないでしょうか》

(與那覇潤『知性は死なない』文芸春秋。2018年)

# 大学をめぐる変化

	1989年（平成元年）	2018年（平成30年）	増減
18歳人口	193万人	118万人	41%減
大学数	499校	782校	1.6倍
大学進学率（%）	24.70%	54.67%（2019年）	2.2倍

（文科省データ2019年度「学校基本調査」を基に作成）

# 大学と会社は別世界

## 大学の構成員

経営者、教員、事務職員、学生

目標、仕事がそれぞれ違う → 構成員はバラバラ

教員は個人商店の店主

教員の同僚は他大学の同じ分野の教員（学会活動こそ）

学生は単位が欲しい（学生同士は競争関係にある）

## 会社の構成員

経営者、従業員

全員が同じ目標を持つ → 構成員は一体

→ タテ、ヨコ、ナナメのコミュニケーションが重要

# 大学改革が迫られる（1）

## ▼外部要因

世界ランキングの低迷

基礎研究の低下

国力（経済力）の低下          大学発のイノベーションがない

「大学は一体何をしてるのか」（大学からのニュースがない）

企業からの注文「使える学生を送り込んでほしい」

## ▼内部要因

閉鎖的で排他的（論文至上主義、「センス」と呼び合う閉鎖性）

学生人口の減少。志願者の奪い合い（高校生の青田買い）

学生の興味は就職（大学院への進学率は約10%）

# 大学改革が迫られる (2)

▼企業が大学生に求める要素 (2018年経団連調査、複数回答可)

コミュニケーション能力 (82%)、主体性 (64)、チャレンジ精神 (49)、協調性 (47)、誠実性 (43) ← 高等教育との関係ない?

他方で、**専門性 (12%)**、**履修履歴・学業成績 (4)**

▼「勉強しない大学生」を作ったのは誰か?

日本は「勉強させない国」か?

偏差値を言いすぎる (偏差値 = 一元的な物差し)

# 「実務家教員」？ 変な名称！

学生にすれば、先生が実務家であろうが、研究者であろうが関係ない。

ずっと大学で育った研究者が教えるのが上手とは限らない。

大学のカリキュラムは、学者を養成するためのもの。

長らく、大学は大学として閉じていた。社会からの要請には無頓着だった。  
「大学とはそういうところ」だった。

開かれた大学を目指す？ 志願者増を目指す？ 社会人学生を増やす？

# 実務家教員とは

学部から博士課程までずっと大学にいたというわけではないが、  
実務を大学で活かすために大学の教員になった人

アカデミック教員とは一線を画す？

実務家教員が生きる分野とそうでない分野がある

「実務社会の暗黙知」を系統立てて「形式知」に翻訳する人

コミュニケーションのお手本となる人（社会人の得意な領分？）

# 実務家教員の課題

ベストの人材を会社が手放すか？

教員になる積極的な理由は？

実務知には賞味期限がある

→ 賞味期限の切れた実務家教員をどうする？

大学の「知」を実務に還元することができるか？

（「大学」と「企業・官庁」の交流が可能か。産学連携？）

# 大学教員になる 3 条件（これまで）

## （1）教授歴

非常勤講師などで大学で単位を授与したことがあるか

## （2）論文 論文の本数（レフリー付き）

## （3）学位 PhDは当たり前（理工系で顕著）

## （その他） 人がら（教育熱心？ 雑務をやってくれる？）

# 未来の大学（提言）

《提言 1》 在学期間10年を標準に

——学びながら働き、自己実現と社会貢献を

《提言 2》 17歳以下でも大学入学を

——研究志向の人はどんどん先に進め

《提言 3》 社会人学生の特別枠を増やせ

——「今から大学生になりたい人」歓迎します

《提言 4》 社会人に小中学校の教員養成プログラムを

——教育への職種転換の道を開く

《提言 5》 地元・地域のカルチャー拠点に

——地域通貨で大学の活性化を

《提言 6》 本気で地域間の連携を

——ネットワーク空間と移動空間で生き延びる

最後まで視聴していただき  
ありがとうございます

宮武久佳（みやたけ・ひさよし）

メール：[hisamiyatake@gmail.com](mailto:hisamiyatake@gmail.com)

略歴：<https://researchmap.jp/hmiyatake>